

「八幡振興計画」住民アンケート 集計・分析概要

昨年夏にご協力いただきましたアンケートの集計・分析結果をお知らせします。

これをもとに、地域みんなでこれから取り組むべきことについてご意見をお寄せください。

1 回答者の特徴

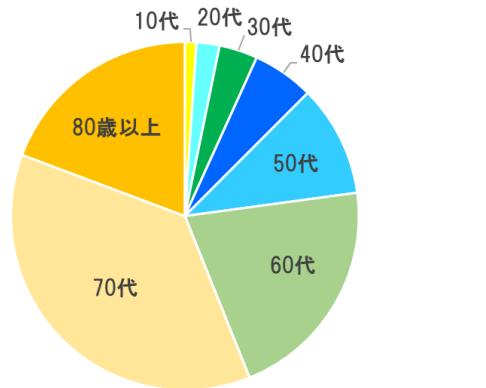
回答者のうち60代以上が75%を超えています。八幡地域の現在の高齢化率（65歳以上の人口割合）が58%あまりであることから見ると、高齢者の視点がより強く反映された結果となっていると考えられます。

◎ 回答者総数 285人 ※八幡全体の5割弱

《参考》令和7年3月末の15歳以上人口 601人（男 280人・女 321人）

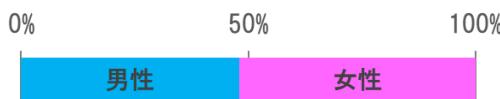
■年齢（有効回答数 280）

10代	3人 (1.1%)
20代	6人 (2.1%)
30代	10人 (3.5%)
40代	16人 (5.6%)
50代	29人 (10.2%)
60代	59人 (20.7%)
70代	103人 (36.1%)
80歳以上	54人 (18.9%)



■性別（有効回答数 258）

男性	124人 (48.1%)
女性	134人 (51.9%)



2 全体的な特徴

- 生活課題では「農地・山林の維持管理（草刈り等）」「有害鳥獣被害」が突出して高くなっています。
- 「健康・介護の不安（自分、家族）」も上位に入っています。加齢、高齢化に伴う生活継続の懸念が強いと思われます。
- 移動は「自家用車（自分で運転）」への依存が極めて高く、運転継続できることが生活の前提になっています。
- 地域情報の入手は『八幡自治振報』や回覧等の紙媒体が中心で、インターネット（HP や SNS など）の利用は1割未満となっています。
- 地域活動は「関心はあるが、積極的ではない」が約半数で、参加の形態や負担の軽減など見直しの余地が大きいと見受けられます。
- 自由記述意見では「この先どうなるか不安」「人が減っていく」「無理のない形で」「続けられるやり方」「助け合い」といったキーワードが傾向として見られ、派手な新規事業を行うよりも持続性・現実性重視の声が強く見られます。

■日常生活での不安・困りごと《上位10・複数回答あり》 (有効回答 281)

1 農地・山林の維持管理（草刈りなど）	126人	44.8%
2 イノシシ・シカなど有害鳥獣の被害	121人	43.1%
3 【自分】の健康や介護、病気（認知症など）になった時のサポート	85人	30.2%
4 【家族】の健康や介護、病気（認知症など）になった時のサポート	74人	26.3%
5 地域の役（役員）や行事・共同作業	66人	23.5%
6 家の跡継ぎ（後継者）のこと	46人	16.4%
7 空き家の増加	46人	16.4%
8 災害への備えや避難のこと	36人	12.8%
9 ゴミ出し	22人	7.8%
10 自家用車の運転	21人	7.5%

■移動の手段《複数回答あり》 (有効回答 281)

1 車（自分で運転）	232人	82.6%
2 車（家族の送迎）	38人	13.5%
3 路線バス	11人	3.9%
4 タクシー	4人	1.4%
5 福祉事業者の送迎	3人	1.1%
6 その他	2人	0.7%
7 バイク（原付含む）	1人	0.4%
8 徒歩	1人	0.4%
9 自転車	1人	0.4%
10 鉄道（芸備線）	0人	0.0%

■情報の入手経路《上位10・複数回答あり》 (有効回答 281)

1 ハ幡自治振報	185人	65.8%
2 広報しょうばら・議会だより	170人	60.5%
3 市発行の行政（回覧）文書	149人	53.0%
4 市の告知放送	101人	35.9%
5 近所・地域の方	37人	13.2%
6 友人・知人	35人	12.5%
7 家族	32人	11.4%
8 インターネット（ホームページ・SNS）	27人	9.6%
9 特に入手はしていない	24人	8.5%
10 職場、保育園・学校	16人	5.7%

■地域活動への参加状況 (有効回答 279)

関心はあるが、積極的には参加していない	137人	49.1%
関心があり、積極的に参加している	78人	28.0%
関心はないが、付き合いで参加している	44人	15.8%
関心はないし、関わりたいとも思わない	14人	5.0%
関心はあるが、交通（移動）手段がないので参加できない	6人	2.2%

3 属性別に見た特徴・傾向

年齢別の特徴・傾向

- ・80歳以上では「自分で運転」から「家族の送迎」等への移行が明確であり、自ら運転しない前提での移動手段が現実に必要とされている。
- ・60～70代は運転できている割合が高い一方、健康・介護への不安が上位に現れており、将来への備えに対するニーズが強いと感じられる。
- ・40～50代は仕事や家庭と地域の役との両立が課題となりやすく、参加負担の軽量化が活動関与拡大の鍵となると思われる。
- ・30代以下（回答数が少ないため、得られた回答で見られる“傾向”）
 - ① 「子育て環境」「防災（備え・避難）」など生活の安心に関する課題意識が相対的に前面に出やすい傾向にある。
 - ② 地域活動は「関心はあるが積極的ではない」層が中心になりやすく、短時間・単発で参加できる入口づくりが有効と思われる。
 - ③ 移動は自家用車中心だが、家族送迎・乗合など自らが運転しない「非運転前提」の選択肢づくりを早めに議論しておくとよいと思われる。

性別の特徴・傾向

- ・男性は「草刈り等」「鳥獣」「地域の役・行事」など、土地管理や地域運営に関する課題が相対的に前面に出やすい特徴がある。
- ・女性は「健康・介護」「移動・運転不安」など、暮らしの安心に関する課題が相対的に強く見られる。
- ・情報の入手経路では、女性のほうが広報紙の利用が高く、男性側に情報が届きにくい層が一定数存在する可能性があると思われる。

住んでいる地域別の特徴・傾向

- ・地域により、自家用車依存の度合い（送迎・バス利用の比率）の差が見られる。
- ・鳥獣被害や農地管理の強さは地域差が出やすく、対策の優先度や重点地域の設定が有効ではないかと思われる。
- ・同じ施策でも、地理条件や高齢化の状況に応じた「実施の仕方（頻度・場所・担い手）」の最適化が必要と思われる。

家族構成別の特徴・傾向

- ・1人暮らしでは、健康・介護への不安や相談・見守りニーズが相対的に高くなりやすい傾向。
- ・夫婦2人世帯では、将来の生活継続（移動・介護）の不安が顕在化しやすく、早期の備えが重要となると思われる。
- ・同居世帯でも「相談の導線」や「役負担」が課題として現れるため、家族内だけで解決しない助け合いの仕組みが求められる。

主な仕事別の特徴・傾向

- ・農業は、草刈り等・鳥獣被害が一番メインの課題で、維持管理の共同化（人手・機材・日程）ニーズが強いと思われる。
- ・就労層（会社員等）は、地域の役や行事の負担感と地域課題の重さが併存しやすく、関与しやすい参加手法の構築が重要になると思われる。
- ・無職層では、健康・介護に加え移動不安が相対的に高く、生活支援の受け皿整備が効果的。

4 地域活動・事業に対する評価

- 全体的には「重要だと思う領域」と「満足できている領域」があまり合致しておらず、重要度が高いのに満足度が低い項目が複数あります。
- 一方で、参加・協力しやすい活動に偏りが見られます。
(環境美化やイベント系は協力できるが、〇〇支援・活用のような仕組みづくりや調整が必要な分野は協力が集まりにくい)

重要度が高いのに満足度が低い（改善した方がいいと思われている）項目

※「改善度」＝「重要度 (%)」－「満足度 (%)」

- 有害鳥獣対策 (改善度 48.6ポイント)
- 農地、山林の維持管理（草刈り等）(〃 43.1ポイント)
- 空き家・遊休施設の活用 (〃 41.5ポイント)
- 防犯（見回り等）(〃 39.5ポイント)
- 子育て支援 (〃 38.6ポイント)
- 移動支援（買い物・通院等）(〃 38.5ポイント)
- 防災（避難訓練・研修等）(〃 37.8ポイント)

★「個人の努力だけでは改善しにくい」「仕組み・担い手・連携が必要」な領域で、計画の柱にした方が良い項目とみることもできます。

満足度が高い（維持・継続した方がいいと思っている）項目

- 情報提供（振興区報・行政文書等）(満足度 68.3%)
- 美化・環境保全（クリーン作戦等）(〃 67.5%)
- 伝統文化・祭事 (〃 55.2%)
- スポーツ行事（大運動会等）(〃 52.8%)
- 季節イベント（盆まつり・収穫祭等）(〃 50.6%)

★「大きな不満が少ない」領域として、地域の一体感づくりの基盤になっています。

協力意向が高い（住民協力を得やすい）項目

- 美化・環境保全（協力意向 85.4%）★圧倒的に高い
- 伝統文化の継承 (〃 52.8%)
- 防災活動 (〃 52.1%)
- スポーツ行事 (〃 39.6%)
- 季節イベント (〃 38.9%)
- 生活支援系では「軽作業支援（掃除・ゴミ出し等） 27.8%」「維持管理 24.3%」「鳥獣対策 22.9%」も一定の担い手の余地があるとみられます。

協力意向が相対的に低く、仕組み・外部連携が必要になりやすい項目

- 空き家、遊休施設の活用（協力意向 5.6%）
- Uターン、定住促進 (〃 4.9%)

★重要度は一定あるものの、住民の“自発協力”だけでは動きにくい領域です。
行政・事業者・仕組みづくりを前提に議論するほうが進みやすいです。